

中学生インタビュー

安曇野市の中学生は、さまざまな職場や福祉施設で体験学習を行っています。福祉施設で認知症の高齢者と触れ合った豊科北中学校2年生2人に感想を聞きました。



秋山 七海 さん

笑 顔で話すとニコニコと笑い返してくれて嬉しかったです。笑顔が通じた。言葉が出にくく、ちゃんと聞いていないと相づちが打てないと思いました。



窪田 桃香 さん

話 があまり理解できなくても、楽しそうに話を聞いてくれました。病気になるっても心は穏やかであることを知りました。今日の経験を生かしたいです。

認知症の人に接する時に心掛けるポイント

心得

- 驚かせない
- 急がせない
- 自尊心を傷つけない

対処方法

- 見守る
- 余裕をもって対応する
- 声をかけるときは一人で
- 後ろから声をかけない
- 相手の目線に合わせる
- 穏やかに、はっきりと
- 相手の言葉に耳を傾け、ゆっくり対応する



温かな支援の輪を

人にはそれぞれ違いがあるように、認知症の人と家族への対応は一概ではありません。しかし、私たちが認知症の正しい知識を持ち、支える姿勢を示すことは、本人と家族の不安を取り除く一助となるはず。広げましょう。温かな支援の輪を。

何がでできるだろう。

認知症になっても地域で穏やかな生活を送るために、私たちができることは何でしょうか。「認知症サポーター養成講座」の講師で、自身も介護者である八田さんに話を聞きました。

辛い気持ちも、地域の人に知ってほしい

内的世界とのズレ

認知症の人がいる内的世界と私たちのいる世界にはズレがあります。83歳になる私の父も自分を35歳だと思っていて、私を自分の姉だと思っています。私たちは、現実世界に引き戻そうとしますが、本人は正しいと思って行動しています。本人たちは混乱し、かみ合

声を掛け続けて

また、認知症の人を支えている家族にも声を掛けていただきたいです。自分から家族が認知症だとはなかなか言えません。地域の人が少ないでも気に掛けてくれると自分から話すことができます。私の場合も、私の家の状況を気に留めてくれる近所のおばちゃんがあります。家に来て面倒を見るわけではありませんが、私の辛い気持ちを知っているおばちゃんがいるだけで、私は父と向き合えます。ぜひ、地域で声を掛け続けて、友達や近所との関係が切れないようにしてほしいと思います。

介護支援専門員
はった けいこ
八田 桂子 さん

居宅介護支援事業所ほっとひだまり勤務。認知症のグループホームで管理者を務めるなど、長年、認知症ケアの現場に携わる。自身も認知症を患う父親の介護者。



認知症サポーターになりませんか？

● 認知症サポーターとは…

認知症サポーターは、認知症を正しく理解し、身近に認知症の人やその家族がいたときは、そっと手助けするなどして温かく見守る応援者のことです。「認知症サポーター養成講座」を受講することで、どなたでもなることができます。

● 受講するには…

市では、地区公民館や団体、学校などの集まりに合わせ「認知症サポーター養成講座」を開催しています。1時間半程度で認知症の基礎知識を学んでいただき、受講者の皆さんには、認知症サポーターの証である「オレンジリング」をお渡しします。講座開催の希望者は下記まで気軽にご連絡ください。また、広く市民の皆さんを対象にしたサポーター養成講座を来年3月に開催する予定です。詳しくは、今後発行する広報でお知らせします。

関介護保険課介護予防担当 (TEL)71・2474 (FAX)71・2503



地区公民館の学習会として開かれた認知症サポーター養成講座 (10/28 重柳公民館)

